



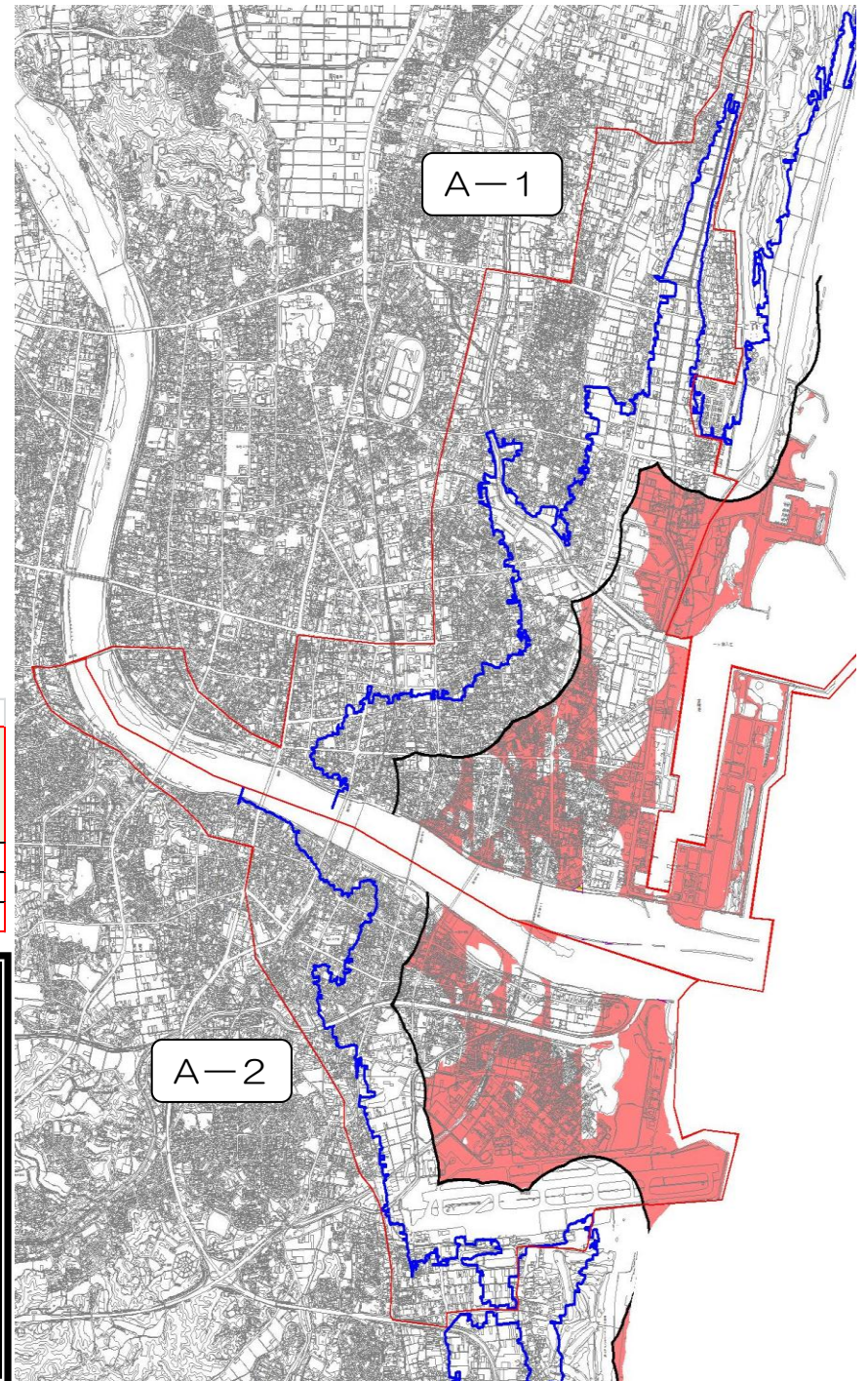
【資料編】

資料 1	避難に時間を要すると予測される区域	77
資料 2	木造建築物の分布状況	79

■資料1 避難に時間を要すると予測される区域（その1）

エリア・地区分類 A-1地区：大淀川河口周辺 / A-2地区：宮崎空港周辺

**避難に時間を要すると
予測される区域**
 避難に10分以上要する区域
 避難目標ライン（浸水ライン）



浸水区域内居住状況

地区	10分以内に避難避難可能と予測される区域内居住者数（人）	避難に10分以上の時間を要すると予測される区域内居住者数（人）
A-1地区	6,329	6,656
A-2地区	4,219	3,522
計	10,548	10,178



【注】
 本図においては、避難路の有無、避難経路、建物倒壊等による避難路閉塞、避難路の勾配等は考慮しておらず、無着色であるからといって避難が容易であるということではない。あくまでも「避難が困難と想定されるエリアの目安」として示すものである。

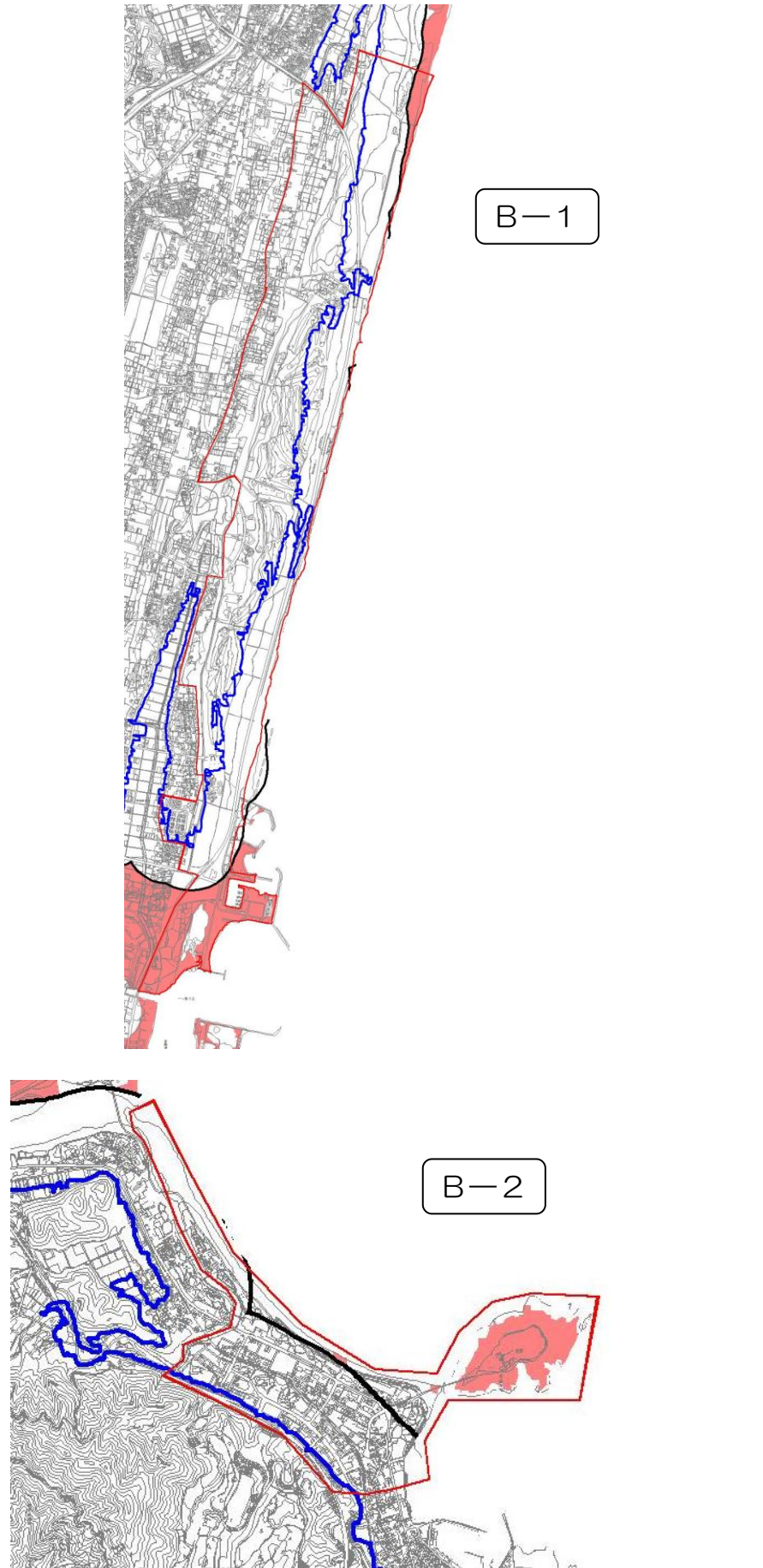
- 1 避難距離は、道路の有無・勾配等に関わらず、単純に図上平面距離で作成しており、実際の避難距離とは異なる。
 2 避難距離の基本的な設定は次の通り。
 ① 避難速度（徒歩）・・・45m/分（南海トラフ巨大地震被害想定手法）
 ② 避難時間は、地震発生後10分（津波ハザードマップ見直し検討会からの提言による暫定措置）
 ③ 津波避難ビル等への避難範囲は、海側には逃げないと仮定し（半円）、収容可能人数を考慮し次式により算出した。
 （ただし最大450m）

$$\text{半径} = \sqrt{\frac{\text{収容人数（人）}}{3.14 \times \text{人口密度（人/m}^2\text{）}} \times 2 \text{（半円）}}$$

【出典：津波避難ビル等に係るガイドライン（平成17年6月）】

エリア・地区分類 B-1地区：阿波岐原 / B-2地区：青島

**避難に時間を要すると
予測される区域**
 避難に10分以上要する区域
 避難目標ライン（浸水ライン）





浸水区域内居住状況

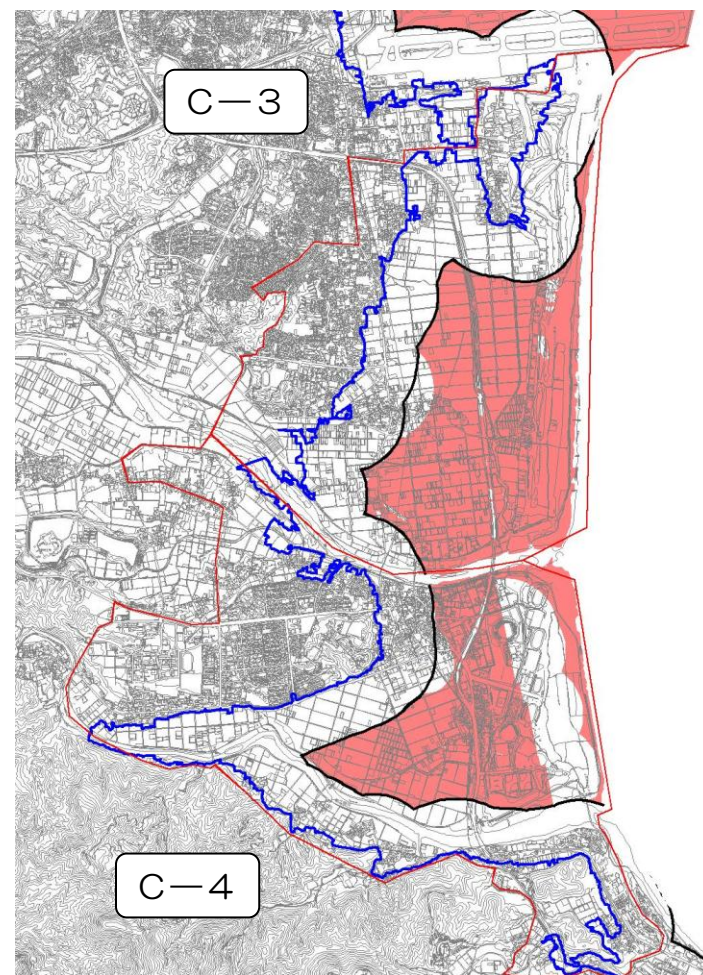
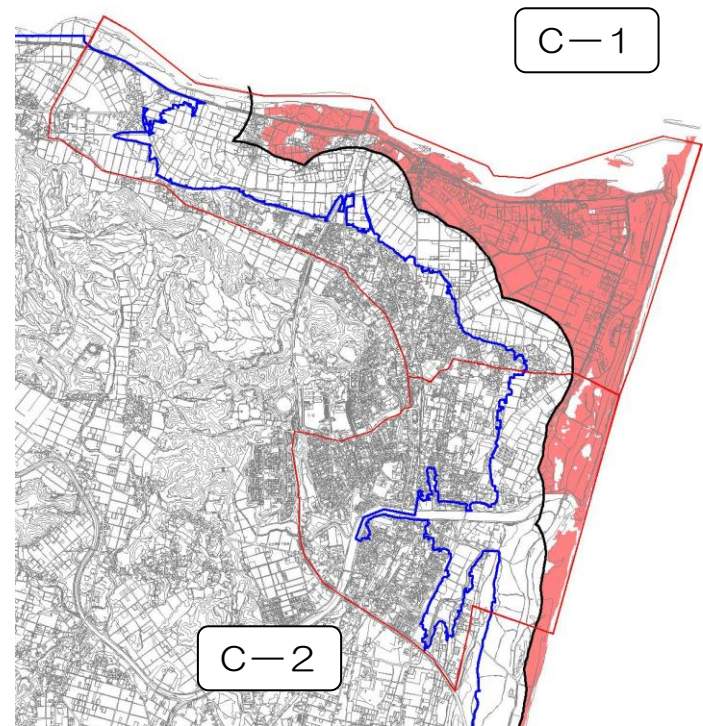
地区	10分以内に避難避難可能と予測される区域内居住者数（人）	避難に10分以上の時間を要すると予測される区域内居住者数（人）
B-1地区	46	0
B-2地区	335	0
計	381	0

【注】
 本図においては、避難路の有無、避難経路、建物倒壊等による避難路閉塞、避難路の勾配等は考慮しておらず、無着色であるからといって避難が容易であるということではない。あくまでも「避難が困難と想定されるエリアの目安」として示すものである。

■資料1 避難に時間を要すると予測される区域（その2）

エリア・地区分類 C-1地区：一ツ瀬川河口周辺 / C-2地区：石崎川河口周辺
C-3地区：南バイパス周辺 / C-4地区：清武川・加江田川河口周辺

**避難に時間を要すると
予測される区域**
 避難に10分以上要する区域
 避難目標ライン（浸水ライン）





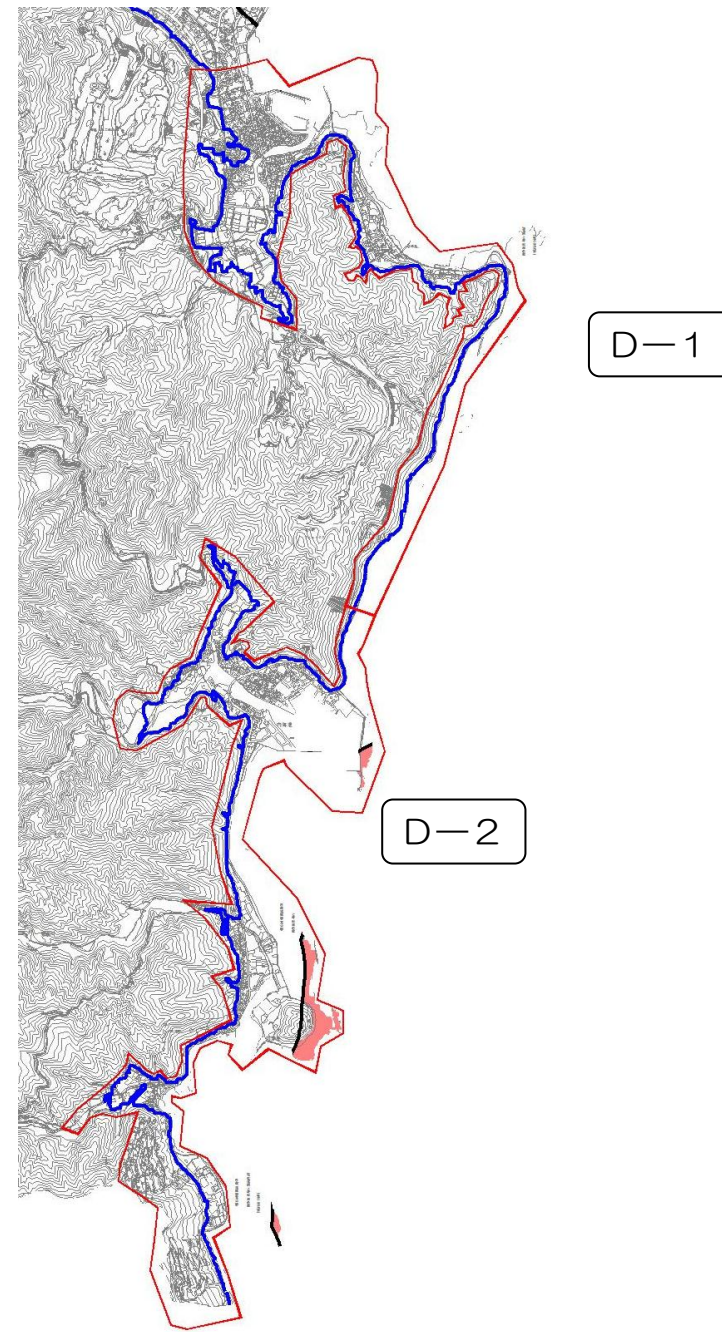
浸水区域内居住状況

地区	10分以内に避難避難可能と予測される区域内居住者数（人）	避難に10分以上の時間を要すると予測される区域内居住者数（人）
C-1地区	137	506
C-2地区	417	6
C-3地区	640	390
C-4地区	760	328
計	1,954	1,230

【注】
本図においては、避難路の有無、避難経路、建物倒壊等による避難路閉塞、避難路の勾配等は考慮しておらず、無着色であるからといって避難が容易であるということではない。あくまでも「避難が困難と想定されるエリアの目安」として示すものである。

エリア・地区分類 D-1地区：青島漁港・白浜周辺 / D-2地区：内海以南

**避難に時間を要すると
予測される区域**
 避難に10分以上要する区域
 避難目標ライン（浸水ライン）



浸水区域内居住状況

地区	10分以内に避難避難可能と予測される区域内居住者数（人）	避難に10分以上の時間を要すると予測される区域内居住者数（人）
D-1地区	791	0
D-2地区	432	0
計	1,223	0

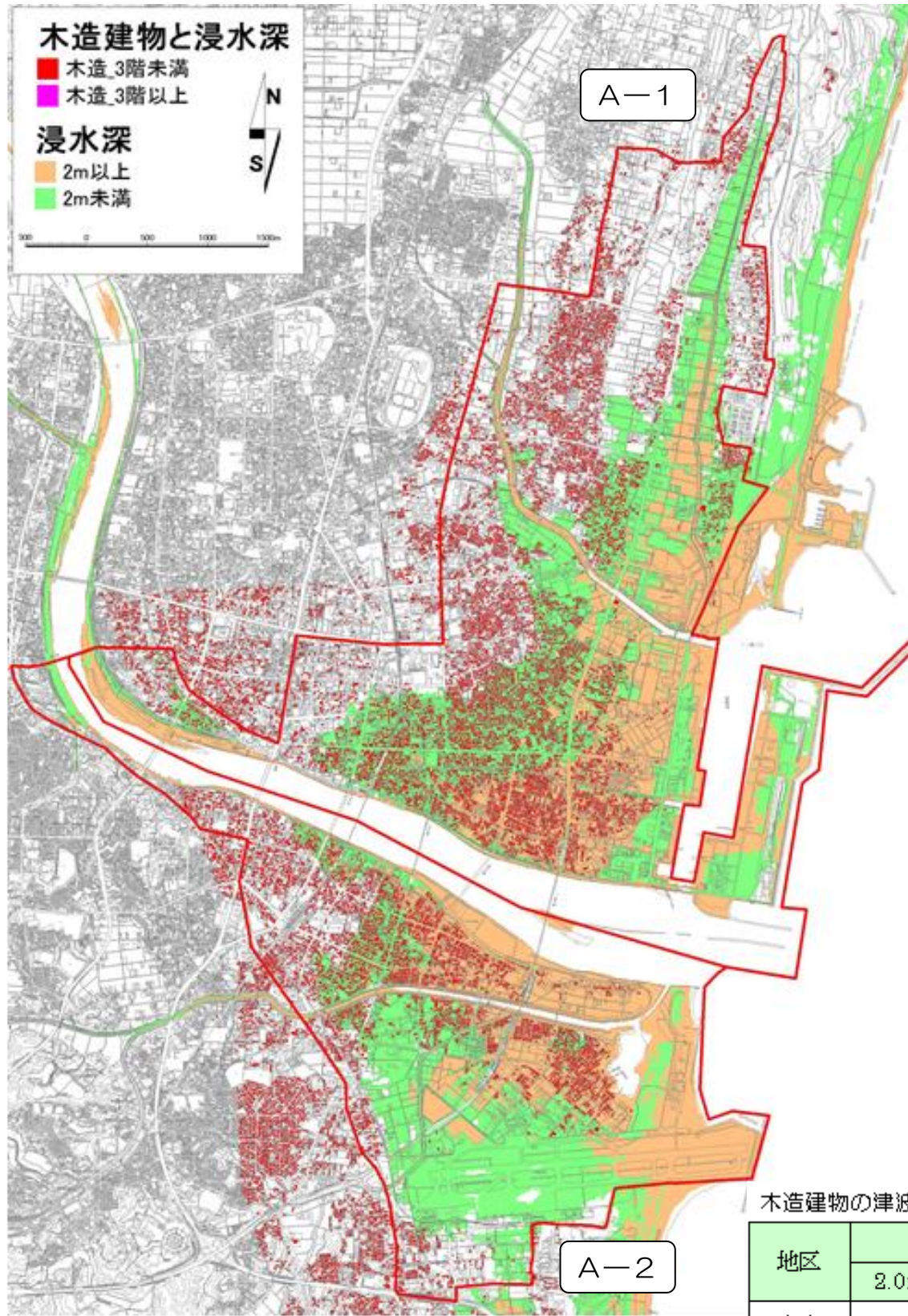
【注】
本図においては、避難路の有無、避難経路、建物倒壊等による避難路閉塞、避難路の勾配等は考慮しておらず、無着色であるからといって避難が容易であるということではない。あくまでも「避難が困難と想定されるエリアの目安」として示すものである。

- 1 避難距離は、道路の有無・勾配等に関わらず、単純に図上平面距離で作成しており、実際の避難距離とは異なる。
- 2 避難距離の基本的な設定は次の通り。
 - ① 避難速度（徒歩）・・・45m/分（南海トラフ巨大地震被害想定手法）
 - ② 避難時間は、地震発生後10分（津波ハザードマップ見直し検討会からの提言による暫定措置）
 - ③ 津波避難ビル等への避難範囲は、海側には逃げないと仮定し（半円）、収容可能人数を考慮し次式により算出した。
（ただし最大450m）

$$\text{半径} = \sqrt{\frac{\text{収容人数 (人)} / \text{人口密度 (人/m}^2\text{)} \times 2 \text{ (半円)}}{3.14}} \quad \text{【出典：津波避難ビル等に係るガイドライン（平成17年6月）】}$$

■資料2 木造建築物の分布状況（その1）

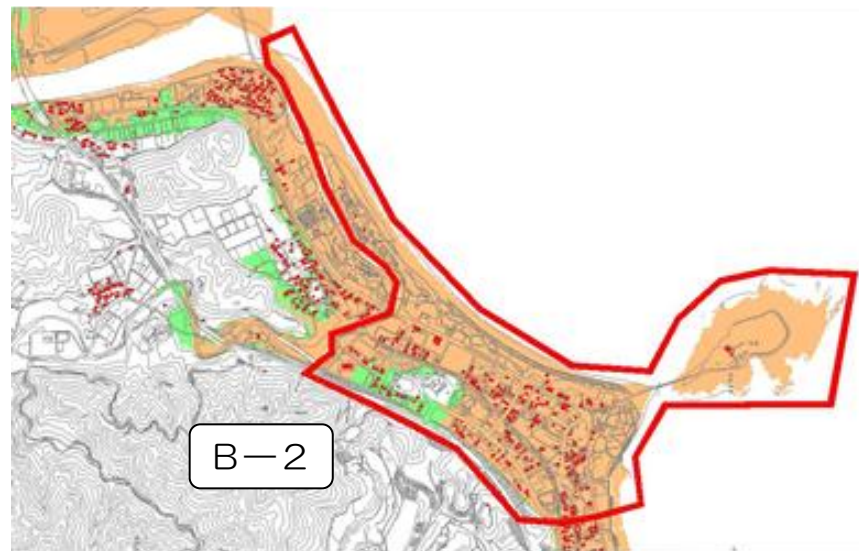
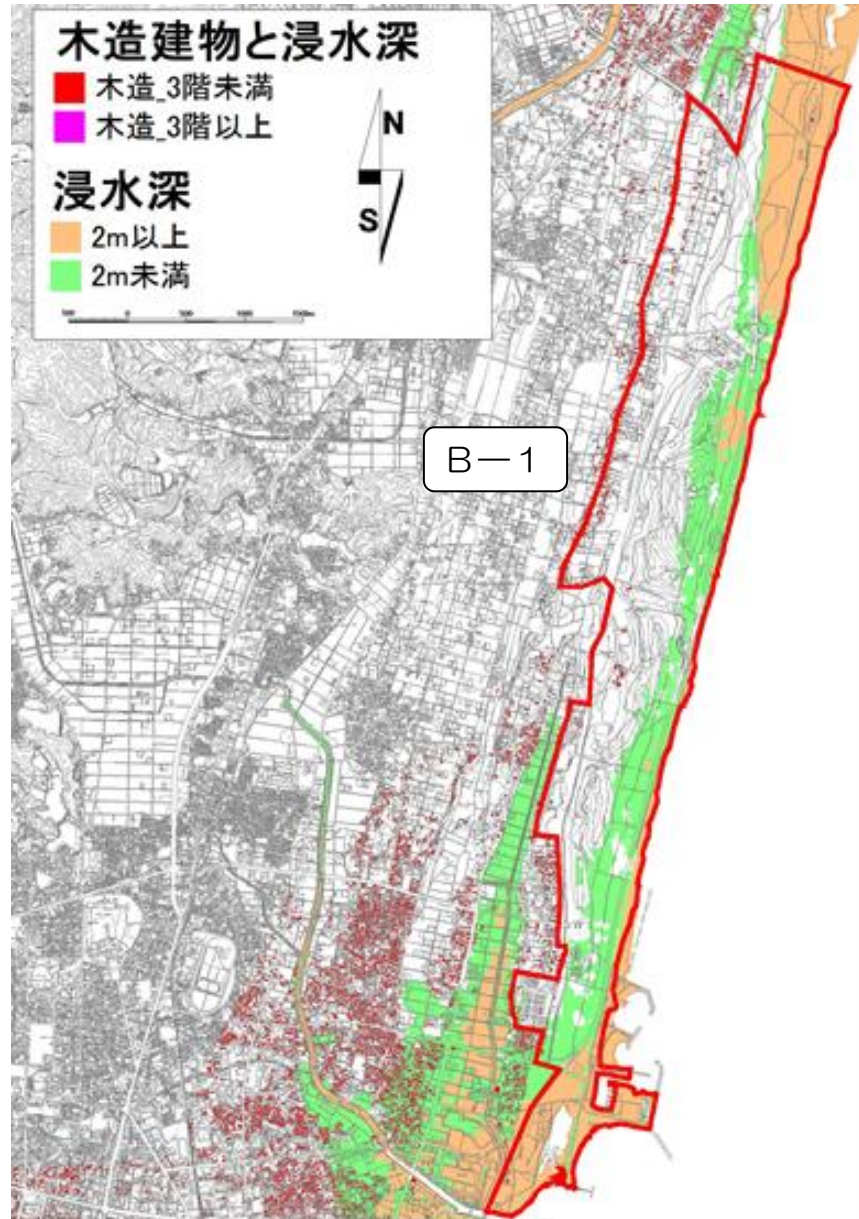
エリア・地区分類 A-1地区：大淀川河口周辺 / A-2地区：宮崎空港周辺



木造建築物の津波浸水想定

地区	棟数（棟）	
	2.0m未満	2.0m以上
A-1	5,421	2,416
A-2	1,928	2,180
合計	7,349	4,596

エリア・地区分類 B-1地区：阿波岐原 / B-2地区：青島

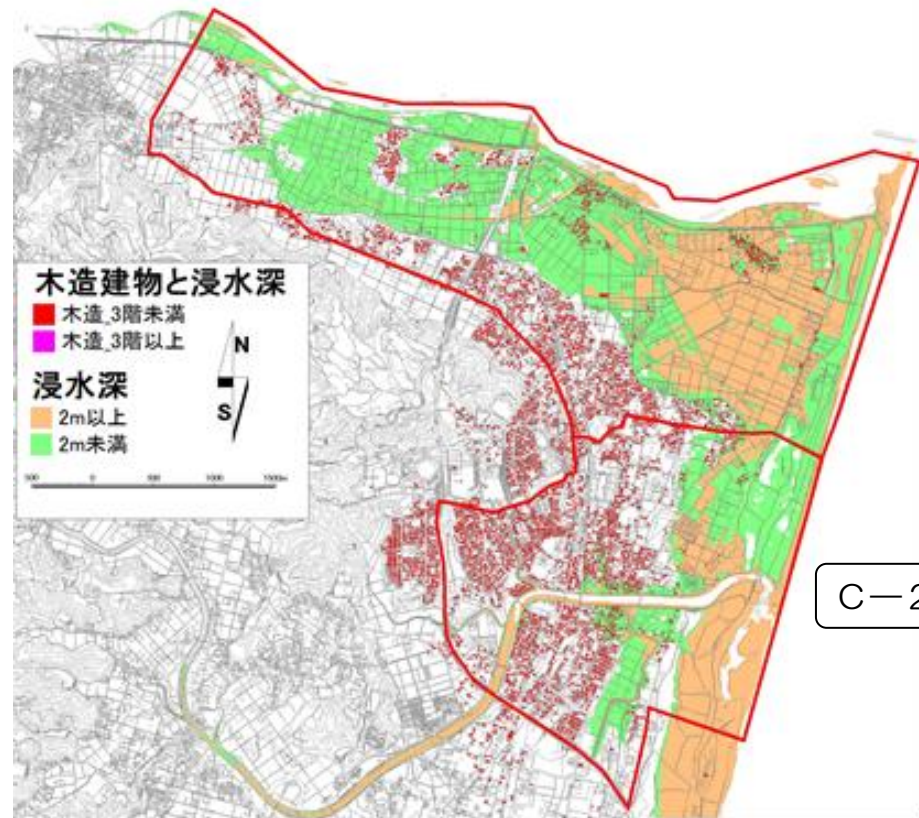


木造建築物の津波浸水想定

地区	棟数（棟）	
	2.0m未満	2.0m以上
B-1	0	19
B-2	20	366
合計	20	385

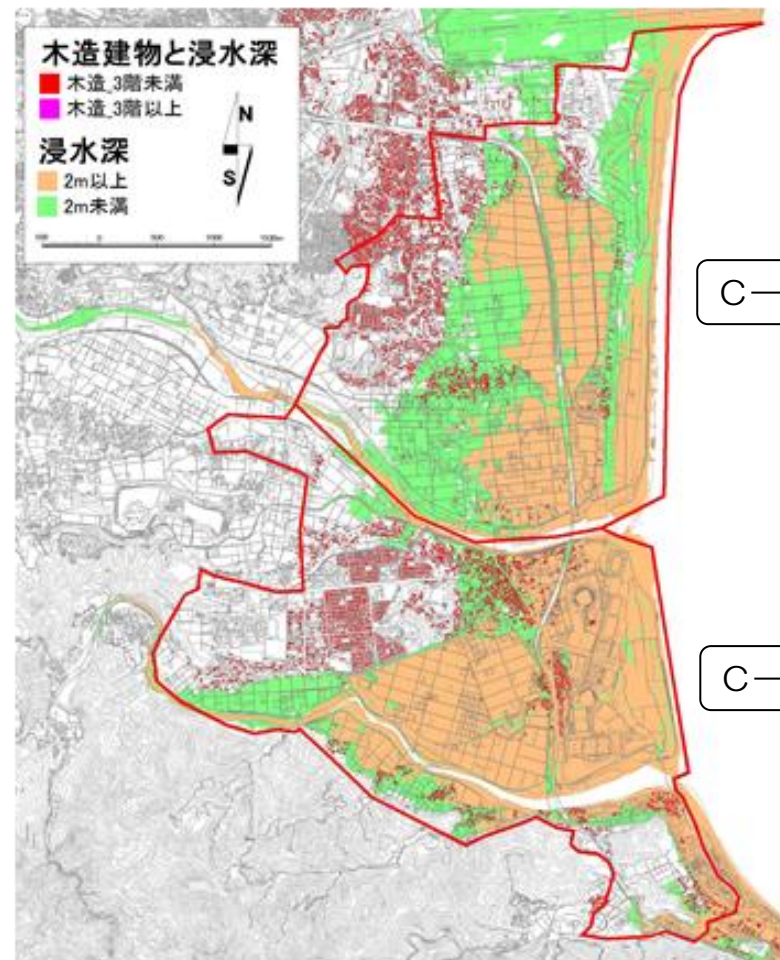
■資料2 木造建築物の分布状況（その2）

エリア・地区分類 C-1地区：一ツ瀬川河口周辺 / C-2地区：石崎川河口周辺
C-3地区：南バイパス周辺 / C-4地区：清武川・加江田川河口周辺



C-1

C-2



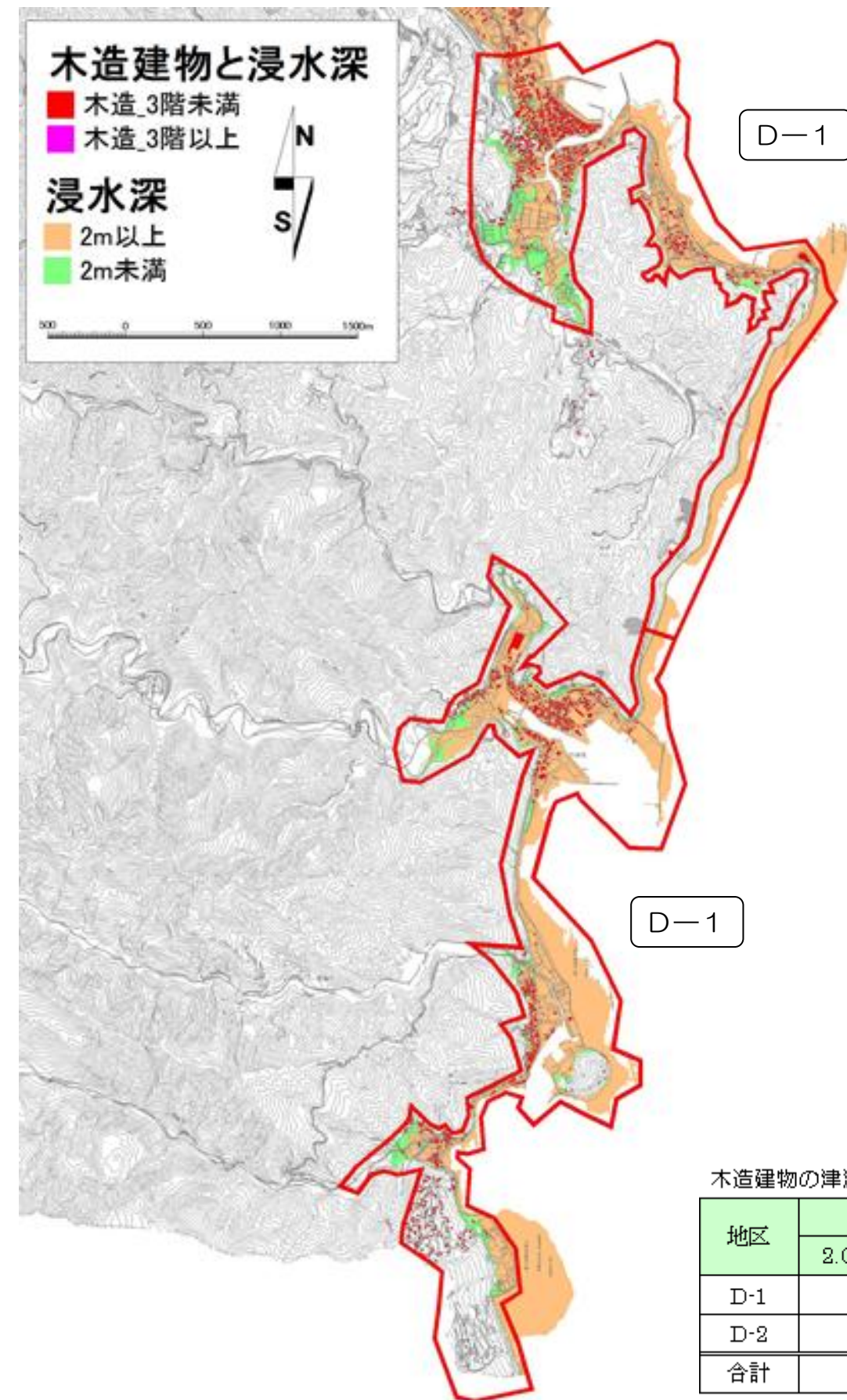
C-3

C-4

木造建築物の津波浸水想定

地区	棟数（棟）	
	2.0m未満	2.0m以上
C-1	398	48
C-2	240	6
C-3	630	48
C-4	1,027	768
合計	2,290	870

エリア・地区分類 D-1地区：青島漁港・白浜周辺 / D-2地区：内海以南



D-1

D-1

木造建築物の津波浸水想定

地区	棟数（棟）	
	2.0m未満	2.0m以上
D-1	64	858
D-2	24	752
合計	88	1,610

